寒冷期のほ育牛・育成牛の飼養管理

本格的な厳冬期はまだ先になりますが、ほ育牛・育成牛にとっては十分厳しい季節です。ほ育牛・育成牛は親牛と比べて寒さに弱く、暖かい時期よりも細やかな飼養管理が必要となります。

一、ほ育牛・育成牛は寒さに弱い

寒さに耐えられる限界温度は、ほ育牛ではプラス　℃、育成牛ではマイナス　℃となっています。ほ育牛・育成牛は体重当たりの表面積が大きいのでエネルギーが奪われやすく、ルーメンが未完成なため熱の発生が少ないなどの理由によります。

特に、寒さに弱いほ育牛では、次のような対策を講じましょう。

①カーフハッチの出入り口を南向きにするなど、可能な限り日光をハッチに取り入れる。

②カーフハッチやカーフペンにシートやコンパネをかぶせ保温性を高める（図1）。

③牛体が濡れないように敷料を多めにしたり、交換頻度を増やす。

④特に寒い時期や生後間もない牛には、必要に応じてヒーター（図2）や湯たんぽ（図3）、防寒着（図4）を利用する。

図1　シートやコンパネで保温性を高める

図2　ヒーターの利用

ヒーターは燃えやすいものをおかないなど、火災の危険の無いように利用します。

図3　湯たんぽの利用

図4　カーフジャケットの利用

二、冬には冬の換気が重要

寒さ対策を優先して施設を閉めきることが多いため、換気がおろそかになりやすく、湿気や臭気がこもる状態となります。日中の暖かい時間帯には、窓や扉を開け積極的に換気しましょう。

ただし、冬期間、体温を奪うのは、ただ気温が低いということよりも、牛体に直接あたる風です。外気の取り入れ口として、窓、壁面のカーテンを開ける際には、風を直接当てないこと（図5）を意識しましょう。

図5　コンパネを利用して直接風を当てない

三、水の給与

水は一年を通して新鮮なものを飲みたいときに飲めるようにすることが重要です。寒冷期に水が凍結して飲水できないことがないようにしましょう。

バケツで水を給与する場合は、飲水可能な状態が長くなるようにお湯を給与したり、夏場より給水回数を増やして1日の中で水を飲める時間を増やします。

ほ育牛に給与する場合は、牛がミルクと誤認識しないようにほ乳後、30分程度時間を空けてから給与しましょう。

また、ほ育牛に冷水を給与すると体温が低下しますので、凍結の心配がない場合であっても、ぬるま湯を給与しましょう。

平成25年10月作成　　釧路農業改良普及センター本所